公益財団法人 日本ソフトボール協会機関誌

JSA ソフトボール

2026年／令和８年
第500号
11月号
（毎月１回 10 日発行）

編集兼発行者　公益財団法人 日本ソフトボール協会
〒160-0013　東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号　Japan Sport Olympic Square
ＴＥＬ．03-5843-0480　ＦＡＸ．03-5843-0485
編集部　㈱日本体育社　〒113-0033 東京都文京区本郷2-40-13-501
ＴＥＬ．03-3811-6911　ＦＡＸ．03-3811-6290



第20回アジア競技大会（2026／愛知・名古屋）で「７連覇」を飾った女子TOP日本代表

Ｃ　ｏ　ｎ　ｔ　ｅ　ｎ　ｔ　ｓ

・第20回アジア競技大会（2026／愛知・名古屋）……2
・第３回女子U15アジアカップ……4
・天皇盃 第72回全日本総合男子選手権大会……6
・第61回全日本大学女子選手権大会……8
・第31回全日本レディース大会……10
・日本スポーツマスターズ2026……12
・第25回全日本エルデスト大会……14
・第18回全日本エルダー大会……16
・第40回全日本シニア大会……18
・ニトリ JD.LEAGUE 2026 第12節……20
・第59回日本女子リーグ第４節……24
・第55回日本男子リーグ第４節……28
・秋の長雨にも負けず、各種大会を開催……32
・事務局だより……34

公益財団法人　日本ソフトボール協会オフィシャルホームページ
www.softball.or.jp

第20回アジア競技大会（2026／愛知・名古屋）

2026年9月26日（土）～10月3日（土）　愛知県安城市



去る9月26日（土）～10月3日（土）、愛知県安城市・安城市総合運動公園ソフトボール場で「第20回アジア競技大会」（2026／愛知・名古屋）が開催され、女子TOP日本代表が、未だどの競技団体も成し遂げたことのない「前人未踏」の大会7連覇、7大会連続の金メダル獲得を達成。スタンドを埋めた満員の大観衆と喜びを分かち合った。

大会開幕から悪天候に見舞われ、通常であれば「とても試合を実施できる状況ではない」というグラウンドコンディションの中、大会関係者、ボランティアの皆さんが懸命のグラウンド整備を行い、参加チーム・選手も「笑顔」でその状況を受け入れ、悪条件の中、全力でプレイ。試合スケジュールの遅延、変更を繰り返しながらも何とか予定された全試合を実施することができた。大会後半は天候も回復。秋晴れの空の下、試合を行うことができ、連日たくさんの観客の皆さんがスタンドを埋め、日本戦以外の試合でも熱い声援を送り、大会を盛り上げてくれた。特に大会前半は雨の中、いつ始まるかわからぬ試合を傘もさせず（スタンドでの傘の使用は安全上の理由から禁止）、雨合羽を身にまとい、ずぶ濡れで試合開始を待つ姿に「真のソフトボールファン」の姿を見た気がした。

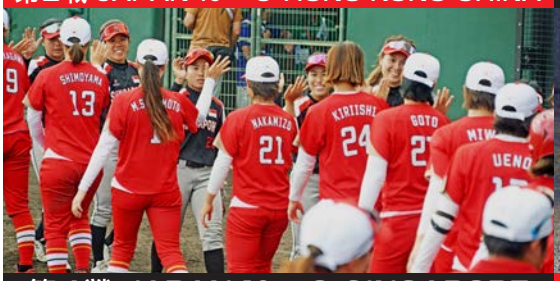
第20回アジア競技大会（2026／愛知・名古屋）ソフトボール競技　日本戦全試合結果



第２戦 JAPAN 15－0 HONG KONG CHINA



第１戦 JAPAN 10－0 PHILIPPINES



第４戦 JAPAN 10－0 SINGAPORE



第３戦 JAPAN 15－0 THAILAND



第６戦 JAPAN 4－2 CHINESE TAIPEI



第５戦 JAPAN 8－0 KOREA



FINAL JAPAN 7－0 CHINA



第７戦 JAPAN 7－6 CHINA

※試合のスコアをクリックすると試合レポートがご覧になれます



大会出場メンバー、試合スケジュール等、詳細情報はこちら

第３回女子U15アジアカップ

2026年10月12日（月・祝）～17日（土）　中華人民共和国・山東省威海

連覇達成！



World Cup 出場権獲得



去る10月12日（月・祝）～17日（土）、中華人民共和国・山東省威海で開催された「第３回女子U15アジアカップ」で女子U15日本代表が「全勝優勝」！「連覇」を達成するとともに、来年開催される「第３回女子U15ワールドカップ」（２０２７年６月28日～７月８日、アメリカ・オクラホマシティで開催予定）への出場権を獲得した。

大会には、日本（１）、チャイニーズ・タイペイ（５）、中華人民共和国（８）、フィリピン（14）、シンガポール（23）、韓国（31）、ホンコン・チャイナ（34）、インド（49）の８チームが出場（※（　）内数字は２０２６年９月23日発表のＷＢＳＣ（世界野球ソフトボール連盟）世界ランキング）。参加全チームで１回総当たりのリーグ戦（予選ラウンド）を実施。その順位に基づき、１位・２位、３位・４位、５位・６位が「最終順位決定戦」を行う試合方式で覇が競われた。

女子U15日本代表は「予選ラウンド」を７戦全勝の１位で通過。「ゴールドメダルゲーム」（決勝）では予選ラウンド２位のチャイニーズ・タイペイと対戦し、２－０の完封勝ち。「連覇」を達成し、「ワールドカップ」出場権を手にした。

第３回女子U15アジアカップ　日本戦全試合結果



第２戦 JAPAN 15 － 0 INDIA



第１戦 JAPAN 9 － 0 PHILIPPINES



第４戦 JAPAN 10 － 0 SINGAPORE



第３戦 JAPAN 14 － 0 HONG KONG CHINA



第６戦 JAPAN 3 － 2 CHINESE TAIPEI



第５戦 JAPAN 12 － 0 KOREA



FINAL JAPAN 2 － 0 CHINESE TAIPEI



第７戦 JAPAN 6 － 1 CHINA

※試合のスコアをクリックすると試合レポートがご覧になれます



大会出場メンバー、試合スケジュール等、詳細情報はこちら

◎天皇盃 第72回全日本総合男子選手権大会◎

令和８年10月３日（土）～６日（火）※雨天により１日順延　高知県高知市／高知県立春野総合運動公園



4チーム優勝で閉幕

記録提供：高知県協会記録委員会

〝国内最高峰〟の歴史・権威ある大会、〝日本男子ソフトボールの頂点〟を決める「天皇盃 第72回全日本総合男子選手権大会」が去る10月３日（土）～６日（火）の４日間（※雨天により１日順延）、高知県高知市／高知県立春野総合運動公園において開催された。

本大会も、女子の部と同時期の２０２４年第70回大会から「天皇盃」を冠し、名実ともに日本一を決める最も格式高い舞台へ。



日本男子ソフトボールの頂点をかけて！

合計32チームで覇が競われる中、大会初日は予定通り進行できたものの、２日目・３日目と「悪天候」に見舞われてしまい……当初予定されていた試合を消化できず。４日目（予備日）を使用して何とか準々決勝まで行うことができたが、クライマックスとなる準決勝・決勝の実施は叶わず……ベスト４に勝ち残った４チームを「優勝」とする形で閉幕することになった。

〈準々決勝〉
Ｈｏｎｄａ 5－1 高崎市役所

先攻のＨｏｎｄａは初回、1番・遠畑光希が安打で出塁。送りバント、外野フライタッチアップで三塁へ進塁後、ワイルドピッチで生還、1点を先取すると、終盤6回表にも相手守備の乱れに乗じて追加点。その裏、1点を返されたが、7回表には再び1番・遠畑光希のヒットを口火に長短5安打を集中！　決定的な3点を奪い、リードを広げ、そのまま5－1で快勝!!〝4チーム同時〟ではあるものの「2年連続7回目」の優勝を飾った。

〈準々決勝〉
高知パシフィックウェーブ 4－1 コマニー株式会社

1－1の同点で迎えた4回表、高知パシフィックウェーブは四球、ヒット、送りバントで一死二・三塁のチャンスを作り、7番・北原匠がセカンド内野安打！　これに相手守備の乱れも絡み、三塁走者、二塁走者、そして打者走者・北原匠まで生還!!　大きな3点を挙げ、試合の主導権を握った。

投げては、先発登板した野本誠士が「ＭＡＸ１３０キロ」の「剛球」で押しまくり、2安打・12奪三振と堂々たるピッチングを展開。4－1の完投勝利を収め、地元・高知で「5年ぶり6回目」の優勝を果たした。

〈準々決勝〉
トヨタ自動車 3－0 大阪桃次郎

トヨタ自動車は3回表、二死走者なしから9番・大野流畏斗が中越ソロホームランを叩き込み、1点を先制。続く4回表にも一死一塁から4番・真崎海斗のライトオーバーのタイムリースリーベースで2点目。5回表には二死一塁から1番・坂本匠がライト線へタイムリースリーベースを放ち、3点目を追加。有利に試合を進めた。

守っては、八木孔輝、小野寺翔太の「二枚看板」を「フレキシブル」に登板させる戦術で大阪桃次郎打線に的を絞らせず、3－0の完封勝利！「44年ぶり4回目」の栄冠を手にした。

〈準々決勝〉
山口水産 4－2 平林金属 ＲＩＮＯ ＢＬＡＺＥ

先攻の山口水産は初回、1番・瀬村太郎が右中間を切り裂く三塁打を放ち、チャンスメイク。一死後、3番・ライリー・マケアの強烈なセンター前タイムリーで生還を果たし、先取点。さらにこの後、平林金属・小山玲央の制球の乱れに乗じて2点目を挙げた。先手を奪った山口水産は2回表にも代わった景山蓮を攻め、一死から3連続長短打を含む4本のヒットを集中し、2点を追加！　4－0とリードを広げた。

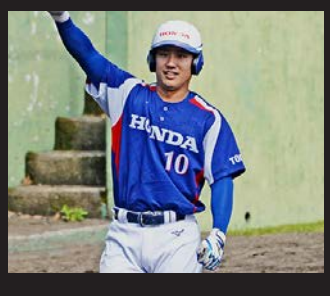

山口水産が序盤「集中打」でリードを奪う!!

投げては、先発・木場田翔也が6回裏にソロホームランを浴び、次打者も安打で出塁させたところで「切り札」リアム・ポッツ（ＴＯＰ・Ｕ23ニュージーランド代表）を投入。そのリアム・ポッツが追加点を与えることなく、試合を締めくくり、4－2で勝利。「初」の優勝をつかんだ。

大会トーナメント表、全試合イニングスコアはこちら







第61回全日本大学女子選手権大会

令和８年10月３日（土）～５日（月）　福岡県福岡市／雁の巣レクリエーションセンター
記録提供：福岡県協会記録委員会



日本体育大学（東京）

７年ぶり21回目の優勝

標記大会は、２０１９年から７年連続（２０２０年は新型コロナウイルスの影響により代替大会を実施）愛知県安城市で開催されてきたが、「第20回アジア競技大会」（※大会の詳細は本誌２・３頁に掲載）が同時期・同会場で開催されることもあり、今年は福岡県福岡市・雁の巣レクリエーションセンターに舞台を移し、10月３日（土）～５日（月）の３日間にわたり開催。全国の精鋭32チームが集結し、熱戦を繰り広げた。



福岡の地で全国の強豪が激突！

大会は、初日（３日／土）に１回戦・16試合、２日目（４日／日）に２回戦・準々決勝の12試合、最終日（５日／月）に準決勝・決勝の３試合を行い、無事全日程を終了。

ベスト４には、東京国際大学（埼玉）、日本体育大学（東京）、園田学園大学（兵庫）、日本福祉大学（愛知）が名乗りを上げ、最終日、「大学女子日本一」の座をかけたクライマックスの戦いに臨んだ。

〈準決勝〉東京国際大学 ０－７ 日本体育大学

後攻の日体大は初回、東京国際大の先発・齋田祈良の立ち上がりをとらえ、一死から２番・武井咲樹がレフト前ヒットで出塁すると、３番・池田えこがレフトスタンドに突き刺すツーランホームランを放ち、２点を先制。さらに４番・黒田有紗、５番・水島光の連打、四球で満塁と攻め立て、７番・宮崎心愛のセカンドゴロがフィルダースチョイスとなる間に１点を追加。二死後、９番・浦山稀衣のファースト強襲安打、１番・佐藤周の二遊間を破るタイムリーで２点を加え、この回一挙５点を奪った。

日体大は５点をリードしたまま、迎えた５回裏にも、一死二・三塁のチャンスで７番・宮崎心愛が左中間を抜くタイムリーツーベースを放ち、走者一掃！ ２点を加え、７－０としたところで大会規程による５回得点差コールドゲームが成立。攻守に盤石な戦いで、７年ぶりとなる決勝進出を決めた。



初回に６本の長短打を集中。５点を奪った日体大

〈準決勝〉日本福祉大学 ０－２ 園田学園大学



園田学園大・辻井まひるが１安打完封の快投！３年ぶりの決勝へ!!

園田学園大は４回裏、一死から２番・千葉もえ、３番・辻野由衣夏の長短打、故意四球で満塁の絶好機を得ると、５番・森心萌がレフト前タイムリーを放ち、１点を先制。６回裏にも、４番・栗田満理奏が左中間へ二塁打を放ち、犠打で三進。二死後、７番・三輪夏恋の三遊間を抜くタイムリーで還り、貴重な追加点を挙げた。

投げては、先発・辻井まひるが日本福祉大打線をわずか１安打に抑える好投。完封勝利で決勝へ駒を進めた。

《決勝》園田学園大学 ０－１ 日本体育大学



〝両エース〟が息詰まる投手戦を展開！

決勝は園田学園大・栗田満理奏、日体大・佐藤希乃花の両エースが緊迫した投手戦を展開。

試合は両チーム無得点のまま、最終回へ。迎えた７回表、園田学園大はこの回先頭の６番・中上麻莉奈がセンター前ヒットで出塁。２つの内野ゴロで三塁まで進んだものの、後続がサードゴロに倒れ、得点ならず。



日体大・宮崎心愛が劇的なサヨナラ弾！

その裏、日体大は、先頭の７番・宮崎心愛が“ファーストストライク”を迷いなく振り抜き、ライトスタンドへサヨナラソロホームラン！「DP／指名選手」として起用し続けた髙橋流星監督の期待に見事応え、歓喜爆発!! ７年ぶり21回目の優勝を飾った。

大会結果詳細、全試合イニングスコアは日本協会オフィシャルサイトで！

第31回全日本レディース大会

令和８年９月18日（金）～21日（月）　奈良県天理市・広陵町／奈良県天理健民運動場 他
記録提供：奈良県協会記録委員会



千葉クラブ（千葉）

悲願の初優勝

本大会は９月18日（金）～21日（月）の４日間にわたり、奈良県天理市・奈良県天理健民運動場、広陵町・第二浄化センタースポーツ広場を舞台に開催された。



全国の精鋭48チームが集結し、熱戦展開！

大会初日（18日／金）に１回戦・16試合、２日目（19日／土）に２回戦・16試合、３日目（20日／日）に３回戦・準々決勝の12試合を行い、ベスト４が決定。

最終日（21日／月）の準決勝には、裾野シスターズ（静岡）、千葉クラブ（千葉）、Ｐａｓｉó（愛知）、岩岡整形外科Ｒｅｄｗｉｎｇｓ（佐賀）の４チームが勝ち上がり、レディース「日本一」の座をかけた「最後の戦い」に挑んだ。

〈 準決勝 〉千葉クラブ ５－３ 裾野シスターズ

裾野は３回裏、相手守備の乱れに乗じて、あっさり３点を先取。試合の主導権を握ったかに見えた。

しかし、千葉も４回表、一死一塁から５番・加瀬生羽がライトへツーランホームラン。１点差に迫ると、５回表には押し出しで３－３の同点に追いついた。

試合はこの後、６回を終えたところで90分の制限時間を迎え、７回から延長タイブレークに突入。７回表、千葉はタイブレークの走者を犠打で三塁へ進め、５番・加瀬生羽のレフトオーバーのタイムリーツーベースで勝ち越し。さらに、野選、バント安打、四球で押し出しとなり、２点のリードを奪った。

守っては、先発・鈴木碧に代わり５回途中からリリーフ登板していた佐藤美智が、その裏、裾野打線を三者凡退に抑え、５－３で勝利。初の決勝進出を決めた。



加瀬生羽が「ツーラン」「勝ち越し打」の大活躍！

〈 準決勝 〉岩岡整形外科 Redwings ３－０ Ｐａｓｉó



岩岡整形外科・山田結が相手打線を完封！

両チーム無得点のまま、迎えた５回表、岩岡整形外科は連続四球、犠打で一死二・三塁のチャンスをつかむと、３番・吉田芳美のセンター前タイムリーで１点を先取。なお一・三塁の好機が続き、一塁走者がすかさず盗塁。二死後、５番・遠藤妃捺のレフト線へのタイムリーで二者が還り、この回３点を奪った。

一方、Pasióは初回に一死一・二塁、３回裏に二死三塁、４回裏に二死一・三塁、６回裏に無死二塁と再三チャンスを作りながら、最後まで得点を奪えず。３－０の完封勝利を収めた岩岡整形外科が決勝へ駒を進めた。

《 決 勝 》千葉クラブ ３－０ 岩岡整形外科 Redwings

先攻の千葉は初回、１番・鈴木英都巴の三遊間を抜く安打、２番・嶋崎桂のショート内野安打、次打者のピッチャーゴロの間の進塁で一死二・三塁とすると、二死後、５番・加瀬生羽の内野安打で三塁走者が生還。先制点を挙げた。千葉は３回表にも、二死二・三塁から５番・加瀬生羽のセンター前タイムリーで２点目を追加。

２点をリードしたまま、迎えた６回表には、６番・原口雅美のライト前ヒット、犠牲バント、８番・小原美桃のショート内野安打で一死一・三塁とし、一塁走者がすかさず盗塁。二・三塁とチャンスを広げ、９番・佐々木志穂のセンターへの犠牲フライで三塁走者がタッチアップし、大きな３点目を奪った。

投げては、先発・佐藤美智が６イニングを散発３安打に抑える好投。最終回は千葉の「盛り上げ隊長」小林茜がマウンドに上がり、空振り三振、ショートゴロ、セカンドゴロの三者凡退に打ち取り、３－０の完封勝利！ 悲願の「初優勝」を手にした。



エース・佐藤美智が６回無失点の好投

大会結果詳細、全試合イニングスコア、決勝ダイジェストは日本協会オフィシャルサイトで！

日本スポーツマスターズ2026 石川大会

令和８年９月19日（土）～22日（火・祝）　石川県小松市／スカイパークこまつ翼
記録提供：石川県協会記録委員会



CSK（千葉）

悲願の初優勝！



【大会概要】

標記大会が、９月19日（土）～22日（火・祝）の４日間、石川県小松市・スカイパークこまつ翼を会場に開催された。

大会には、全国の精鋭48チームが集結。大会初日、４球場を使用し、１回戦16試合を行い、２日目は同じく４球場で２回戦16試合を実施。３日目は４球場を使用し、３回戦８試合・準々決勝４試合の計12試合を行い、大会最終日は２球場で準決勝２試合・決勝１試合の計３試合を行い、予定通りの日程で全試合を無事に終了した。

試合会場は小松空港に隣接するような立地で、時折「試合会場に降りてくるのか？」と思うほど、間近で航空機の離発着を見ることのできるグラウンドが印象的でもあった。

ベスト４には、かつて「日本リーグ」チームに在籍していた好投手・栗田直哉擁する可児ホークス（岐阜）。同じく「日本リーグ」経験者がチームの核となるグリーンハート（埼玉）。３回戦で地元・期待の野々市壮年クラブを倒し、勝ち上がったアストロ（山梨）。こちらは「クラブ」のカテゴリーで一時代を築いた「USC浦安」でプレイしたメンバーを擁するCSK、以上が名乗りを上げた。

〈準決勝〉
グリーンハート ５－３ 可児ホークス

グリーンハート・栗原大輔、可児ホークス・栗田直哉、両エースが一歩も譲らぬ投げ合いを演じ、息詰まる投手戦となり、迎えた５回表、グリーンハートは一死から９番・川端洋樹がピッチャー前のバント安打で出塁。続く１番・藤原達矢が左中間を深々と破る適時二塁打を放ち、一塁走者が一気にホームイン！ 待望の先取点を挙げた。これで勢いづいたグリーンハートは続く６回表にも３連続を含む５本の長短打を集中し、大量４点を追加。５点差にリードを広げた。

可児ホークスはその裏、２番・永野翔也以下の怒涛の４連打を含む５安打を集中し、３点を返したが、そこで無情の時間切れ。惜しくも敗れた。



グリーンハートが終盤の猛攻で可児ホークスを振り切り、決勝へ

〈準決勝〉
ＣＳＫ 12－５ アストロ

CSKは２回表、相手守備の乱れに乗じて無死二・三塁の先制機をつかみ、一死後、８番・吉村淳の二遊間を抜けた当たりがランニングホームランとなり、３点を先制。その裏、２点を返されると、直後の３回表、４本の長短打を集中し、３点を追加。その裏、また２点を返されると、４回表には３番・大沼浩司、６番・天川谷崇夫の本塁打を含む８本の長短打で６点を奪う「やられたらやり返す！ 倍返しだ!!」とばかりに失点を上回る得点を挙げ、アストロを圧倒。

アストロも４番・仲沢大輔が２打席連続本塁打を放つ等、反撃したが、失点をはね返すまでには至らず、準決勝で涙を飲み、決勝進出はならなかった。



打線爆発！ CSKが15安打と打ちまくり、決勝へ駒を進めた

〈決勝〉
ＣＳＫ ８－４ グリーンハート

CSKは２回表、この回先頭の６番・天川谷崇夫のセンターへの当たりがランニングホームランとなり、まず１点を先制。７番・山口訓明がセンター前に落ちるポテンヒットで続き、犠打で確実に走者を進め、二死後、９番・佐々木力の一・二塁間への当たりをファーストがダイビングキャッチ。一塁へ飛び込み、打者走者をアウトにする間に、二塁走者が一気にホームイン！ この回２点を先制した。勢いに乗るＣＳＫは続く３回表にも２番・伊藤隆太朗の二塁打からチャンスをつかみ、ワイルドピッチ、パスボールで１点を追加。４回表には持前の「強力打線」が火を噴き、四球、犠打で一死二塁とした後、１番・内藤広信、２番・伊藤隆太朗の連続三塁打、二死後、４番・岡本光正、５番・山下稔、６番・天川谷崇夫の３連続長短打で一挙５点を奪い、８－０とリードを広げた。

グリーンハートもその裏、４番・栗原大輔が「意地」の本塁打を放ち、まず１点。続く５回裏には相手守備の乱れに乗じて２点を奪い、最終回にも、この回先頭の９番・川端洋樹のセンター前ヒット、パスボール、１番・藤原達矢の左中間二塁打で1点を返し、追い上げムードが高まったが、次打者のショートゴロで二塁走者が飛び出し、二・三塁間で挟まれ、タッチアウト。これで反撃の機運もしぼんでしまい、８－４で試合終了。CSKが念願の初優勝を手にした。



ランニングホームランで生還も、本塁上でバッタリ



決勝戦ダイジェスト動画はこちら



大会結果の詳報、全試合のイニングスコア等は、日本ソフトボール協会オフィシャルホームページで

第25回全日本エルデスト大会

令和８年９月26日（土）～29日（火）福岡県福岡市／雁の巣レクリエーションセンター
記録提供：福岡県協会記録委員会



標記大会は９月26日（土）～29日（火）の４日間にわたり、福岡県福岡市を舞台に開催され、全国の厳しい予選を勝ち抜いてきた「エルデスト」の精鋭46チームが集結した。

大会初日（26日／土）は、１回戦・14試合が予定されていたが、試合開始前から試合中にかけて雨脚が強まり、最後は土砂降りの中試合が行われ、４球場のうち３球場で１試合ずつを消化。しかし、残る１試合はサスペンデッドゲームとなり、その他、初日に実施予定であった10試合は中止となった。２日目（27日／日）には、そのサスペンデッドゲーム１試合と前日中止になった10試合を実施。３日目（28日／月）は、再び悪天候に見舞われ、やむなく中止を決定。大会最終日（29日／火）は、快晴となったが、連日の荒天によってグラウンドコンディションが悪化し、当初予定していた球場での試合実施は困難な状況に。急遽、練習会場として使用していた球場に簡易ネットを設置し、２回戦・16試合が行われた。

また、この「生涯種別」には予備日が設けられていないため、これをもって「大会打ち切り」が決定。ベスト16で閉幕となった。

度重なる荒天の中、試合の実施に向けて尽力された福岡県協会の皆様に深く感謝申し上げたい。

第25回全日本エルデスト大会 試合結果

荒天のため２回戦をもって中止









1	泉川ジョインズ	愛媛	2					
2	浅間台ソフト	埼玉	1					
3	バンデ	佐賀	0					
4	ファインズ	岐阜	17	12				
5	オール佐久コスモス	長野		0				
6	富山セレクトクラブ	富山			0			
7	ＩＢＢ	茨城	不戦勝		7			
8	ＯＢＢ草津	滋賀	3					
9	C'est La Vie	神奈川	2					
10	オホーツクリリーボンズ	北海道	9					
11	鳥取すなばぁず	鳥取	4	7				
12	Re☆Shine	群馬	不戦勝	0				
13	ジャマナイズ	石川	4	7				
14	Ｄｒｅａｍｓふじっぴぃ	静岡	3					
15	ヒーロー	山梨	0					
16	ＣＬＵＢ ＳＰＩＲＩＴＳ	兵庫	11	8				
17	ＡＮＴＩ・ＡＧＩＮＧ	福岡		0				
18	Ｅｅｌ Ｏｎｅ	静岡		6				
19	ソフターズ５０	広島	15	2				
20	ひまわり	愛媛	3					
21	川口ハーモニー	埼玉	7					
22	福井トレジャーズ	福井	0	0				
23	Ｆｓみやぎ	宮城		1				
24	横浜マリンズ	神奈川		2				
25	Ｌ．Ｓ鹿児島	鹿児島	0	1				
26	ＲＵＳＨ！	三重	11					
27	ＧＬＯＲＹ	千葉	5					
28	きらら	京都	0	1				
29	ＣＨＥＥＲＳ東広島	広島		7				
30	浦安ＢＢＡ	千葉		0				
31	フレンズ宮城	宮城	不戦勝	7				
32	Ｂｅｌｌｅ	愛知	0					
33	ＣＦどんたく隊	福岡	15					
34	大正ひまわり	大阪	1	0				
35	ドリコメ	香川	7	6				
36	高槻ゆうゆう	大阪		3				
37	Ａｌｉｖｅ	東京	9	2				
38	防府クラブＬ（ＧＯＬＤ）	山口	8					
39	ファイヤー熊本	熊本	1					
40	ＬｉｂｅｒｔａＯｒｃａなごや	愛知	2	5				
41	ふれんず	石川		3				
42	Ｒａｉｎｂｏｗ	東京		0				
43	大和ネバーズ	奈良	1	4				
44	ＡＶＡＣＨＡＮ'Ｓ	長野	3					
45	高知ＦｉｇｈｔｉｎｇＣａｔ's	高知		7				
46	シルバーウィングス	滋賀	不戦勝	0				

大会結果詳細、全試合イニングスコアは日本協会オフィシャルサイトで

第18回全日本エルダー大会

令和８年10月３日（土）～５日（月）　静岡県静岡市／富士川緑地公園スポーツ広場・富士川河川敷スポーツ広場
記録提供：静岡県協会記録委員会



地元で連覇達成

裾野シスターズ（静岡）



優秀選手
鈴木英都巴（GLORY）



大会MVP
白井加奈絵（裾野シスターズ）

【大会概要】

標記大会が、10月3日（土）～5日（月）の3日間、静岡県静岡市・富士川緑地公園スポーツ広場・富士川河川敷スポーツ広場を会場に開催された。

大会には、全国の精鋭38チームが出場。大会初日、2会場・6球場を使用し、1回戦6試合・2回戦16試合を行い、2日目は同じく2会場・4球場で3回戦8試合・準々決勝4試合の計12試合を行い、大会最終日は富士川緑地スポーツ広場で準決勝2試合・決勝1試合の計3試合を行い、予定通りの日程で全試合を無事に終了することができた。

準決勝には、昨シーズンの「覇者」であり、「地元」の期待と熱い声援を背に戦う裾野シスターズ（静岡）。

昨年、惜しくも準優勝。「今年こそ！」と意気込み、優勝を狙うCanata elder（東京）。

この世代、カテゴリーでは「有名人」鈴木英都巴、鈴木碧を中心に、勝ち上がってきたGLORY（千葉）。

かつて「日本リーグ」「日本代表」で活躍した選手も在籍するSIVA（大阪）。

以上の4チームが大会最終日まで勝ち残り、「エルダー日本一」の座をかけ、「最終決戦」に挑んだ。

〈準決勝〉
GLORY　７－６　Canata elder

GLORYが初回に２点を先制すれば、Canata elderがその裏、すぐに３点を奪い、逆転。中盤、GLORYが小刻みに加点し、４－３と試合をひっくり返し、迎えた６回裏、Canata elderがしぶとく追いつき、４－４の同点としたところで制限時間を迎え、７回からタイブレークに入った。

７回は両チーム１点ずつを取り合い、迎えた８回表、GLORYがフィルダースチョイス、４番・佐々木志穂のタイムリーで２点を勝ち越し。

Canata elderもその裏、途中出場の５番・登田麻美のセンター前ヒット等で「一打同点」のチャンスを作ったが、得点は１点のみ。GLORYが７－６で逃げ切り、決勝進出を決めた。



GLORY がタイブレークにもつれ込む「死闘」を制し、決勝進出！

〈準決勝〉
SIVA　０－７　裾野シスターズ

地元の熱い声援を受け、「連覇」へ向け、順調な歩みを刻む裾野シスターズは、両チーム無得点で迎えた３回裏、安打、犠打、死球で一死一・二塁とし、３番・前出由佳がセンター前へタイムリーを放ち、二塁走者が一気にホームイン！　さらに二死から５番・西島美咲、６番・白井加奈絵の連打で1点を加え、リードを奪うと、続く４回裏には３連打を含む５安打を集中し、大量４点を追加。５回裏には、四死球等で二死二・三塁のチャンスをつかみ、２番・佐野美穂がレフト前に安打を放ち、この得点が７点目。大会規程により得点差コールドゲームが適用され、裾野シスターズが７－０の５回コールドで勝利を収めた。



裾野シスターズが SIVA を破り「連覇」の偉業達成に「王手」

〈決勝〉
GLORY　０－４　裾野シスターズ

裾野シスターズは２回裏、二死走者なしから相手守備の乱れに乗じて先取点を挙げ、なお続く二死満塁のチャンスに、２番・佐野美穂がセンター前にタイムリーを放ち、二者が還り、この回３点を挙げ、「連覇」をグッと引き寄せた。

裾野シスターズは４回裏にも「投打二刀流」の６番・白井加奈絵の右中間への安打を口火に、相手守備の乱れもあり、無死満塁の追加点のチャンスをつかみ、９番・白井奈保美の三遊間を抜くタイムリーで１点を追加。４－０とリードを広げた。

一方、GLORYは１番・鈴木英都巴が初回、先頭打者で安打を放つも得点につなげられず、３回表にも一死から右中間を破る二塁打を放ち、必死にチームを鼓舞したが、裾野シスターズの「エース」白井加奈絵の打者心理を読み切り、「緩急」を巧みに交えた「頭脳的」にして「芸術的」なピッチングの前に打線が沈黙。わずか３安打では打つ手がなく、最後まで攻略の糸口を見出すことができずに終わってしまった。

裾野シスターズは「地元」の熱い声援にも後押しされ、「連覇」を達成！　再び「頂点」へと登り詰めた。



裾野シスターズが「連覇」を達成！



決勝戦ダイジェスト動画はこちら



大会結果の詳報、全試合のイニングスコア等は、日本ソフトボール協会オフィシャルホームページで

第40回全日本シニア大会

令和８年10月10日（土）～13日（火）　三重県志摩市／長沢野球場・阿児ふるさと公園・磯部ふれあい公園
記録提供：三重県協会記録委員会



2年連続3回目の優勝

浦和SG（埼玉）



優秀選手
永野泰司（朝倉体育会）



大会MVP
山田雅（浦和SG）

【大会概要】

標記大会が、10月10日（土）～13日（火）の４日間、三重県志摩市／長沢野球場・阿児ふるさと公園・磯部ふれあい公園を会場に開催された。

大会には、全国の精鋭48チームが参加。大会初日、３会場・４球場を使用し、１回戦16試合を行い、２日目は同じく３会場・４球場で２回戦16試合を実施。３日目も同様に３回戦８試合・準々決勝４試合の計12試合を行い、大会最終日は長沢野球場・多目的広場の１会場・２球場で準決勝２試合・決勝１試合の計３試合を行い、予定通り全試合を終了することができた。

準決勝には、「たっすいがはいかんぞ！」の精神で気合の入った戦いを見せる高知県代表・朝倉体育会。

初の栄冠をめざす「ソフトボールが大好きな初老の集まり」福井県代表・吉勝重建シニア。

２年連続３回目の優勝を狙う「創部37年」の歴史と伝統を誇る埼玉県代表・浦和ＳＧ。

好投手・前川浩を擁し、３年連続の本大会出場。「年齢は重ねても情熱は衰えない」をモットーとする福岡県代表・福岡とびうめ倶楽部。

以上の４チームが大会最終日まで勝ち残り、「最終決戦」に臨んだ。

〈準決勝〉
朝倉体育会　８－０　吉勝重建シニア

先攻の朝倉体育会は初回、４本の長短打を集中し、いきなり３点を先制。試合の主導権を握ると、続く２回表にも、敵失、盗塁で一死二塁の追加点のチャンスをつかみ、２番・浅野圭二の左中間へのタイムリーツーベースで１点を追加。５回表には、相手守備の乱れに乗じて２点を追加し、１番・川村洋一、２番・浅野圭二の長短打で２点を加え、８－０と大きくリードを奪った。

守っては、今大会一人で投げ抜く「エース」永野泰司が吉勝重建シニア打線をわずか１安打に抑え込み、８－０の５回コールドで決勝進出を決めた。



朝倉体育会が投打に吉勝重建を圧倒！ ５回コールドで決勝へ!!

〈準決勝〉
福岡とびうめ倶楽部　２－４　浦和 SG



浦和SGが接戦を制し、２年連続の優勝に王手

後攻の浦和ＳＧは初回、安打、犠打で得点圏に走者を進め、３番・田中雄公がセンター頭上を越える適時二塁打。幸先よく先取点を挙げた。

福岡とびうめ倶楽部はその直後の２回表、安打で出塁した走者が二盗、三盗と相手守備陣に揺さぶりをかけ、パスボールで１－１の同点に追いついた。

浦和ＳＧは４回裏、安打で出塁した走者を犠打、パスボールで三塁まで進め、９番・前秀晴がレフト前に勝ち越しのタイムリー。５回裏には５番・中村智衛の適時三塁打で１点を追加。６回表に１点を返されたものの、その裏、スクイズで１点を加え、「エース」山田雅が相手打線の反撃をかわし、このリードを守り切り、４－２で勝利を収めた。

〈決勝〉
朝倉体育会　４－６　浦和 SG

先攻の朝倉体育会は初回、１番・川村洋一が三塁線を鋭く破る二塁打を放ち、犠打で三塁まで進塁。３番・吉岡修一への初球がパスボールとなり、労せずして先取点を挙げた。

１点を追う浦和ＳＧは３回裏、二死走者なしからファーストフライの落球で走者を出すと、これで試合の流れが変わり、盗塁、２番・前島昭仁の二遊間を抜く安打で一・三塁と攻め立て、再び一塁走者が盗塁。二・三塁とした後、３番・田中雄公への４球目がパスボールとなり、同点。さらに田中雄公に右中間を深々と破るタイムリースリーベースが飛び出し、三塁走者が還り、２－１と逆転に成功した。

これで勢いづいた浦和ＳＧは続く４回裏、一死から６番・渡辺敏が絶妙なセーフティーバントを決め、出塁すると、すかさず盗塁。７番・山田雅がセンター前にはじき返すタイムリーを放ち、１点を追加（このとき本塁に滑り込んだ渡辺敏が負傷退場となるアクシデントがあった）。５回裏にも連投で疲れの見える朝倉体育会の「エース」永野泰司から５本の長短打で３点を奪い、「連覇」をグッと引き寄せた。

朝倉体育会も６回表、３本の長短打を集中し、３点を返し、２点差まで追い上げたが、反撃もここまで。浦和ＳＧが６－４で勝利を収め、２年連続３回目の優勝を手にした。



浦和SGが２年連続３回目の優勝！



決勝戦ダイジェスト動画はこちら



大会結果の詳報、全試合のイニングスコア等は、日本ソフトボール協会オフィシャルホームページで



ニトリ JD.LEAGUE

ニトリ JD.LEAGUE 2026 第12節



●第12節●

「ニトリJD. LEAGUE 2026」は、10月9日（金）、「東地区」群馬県高崎市での「高崎ラウンド」、「西地区」滋賀県甲賀市での「甲賀ラウンド」に加え、第11節「刈谷ラウンド」で雨天順延となっていた1試合を「フライデーナイター」として実施。翌日から「東地区」神奈川県横浜市での「横浜ラウンド」を加えた4会場で熱戦が展開された。また、この第12節は「東地区」の「横浜ラウンド」のみ、12日（月・祝）まで試合を行う「変則日程」が組まれていた。

「東地区」では、戸田中央、ビックカメラ高崎の両チームが20勝7敗で「同率首位」を並走。17勝9敗のホンダが3位、16勝11敗のデンソーが4位につけ、この4チームの「ポストシーズン進出」が決定。レギュラーシーズン「最終節」となる第13節で「地区優勝」が決まることになるが（本誌発行の頃には決まっているが）、残り試合の対戦カードを見ると、ビックカメラ高崎が日立、大垣ミナモであるのに対し、戸田中央はデンソー、ホンダと上位チームとの対戦を残しており、同率のままレギュラーシーズンを終えた場合の順位決定でも「直接対決」を2勝1敗と勝ち越しているビックカメラ高崎が有利な状況にある。

以下、12勝14敗の日立が5位、11勝15敗のNECが6位、8勝18敗の太陽誘電が7位、7勝20敗の大垣ミナモが最下位の順となっている。

「西地区」は、豊田自動織機とSGホールディングスが18勝9敗で「同率首位」に並び、「リーグ4連覇」「地区5連覇」を狙うトヨタは17勝10敗で3位と「ポストシーズン進出」は決めているものの、「地区優勝」は厳しくなった。豊田自動織機には「直接対決」で勝ち越しているが、SGホールディングスには負け越しており、「逆転優勝」には自チームの「連勝」とSGホールディングスの「連敗」が条件となる。SGホールディングスは豊田自動織機との「直接対決」にも勝ち越しており、現時点で「地区優勝」に最も近く、有利な立場に立っている。

「ポストシーズン進出」最後のイスを巡る争いは4位に13勝14敗の日本精工、5位に11勝14敗のSHIONOGI、6位に11勝15敗の伊予銀行がひしめき合い、消化試合数の差異もあり、日本精工「有利」は動かないが、数字の上では「奇跡の逆転」の可能性も残されている。以下、7勝19敗のタカギ北九州が7位、5勝20敗の東海理化が最下位となっている。

ニトリ JD.LEAGUE 2026 第12節「東地区」横浜ラウンド 神奈川県横浜市・サーティーフォー保土ヶ谷球場

月　日		試合結果		
10月10日(土)	第1試合	大垣 ミナモ	4−2	戸田中央 メディックス埼玉
	第2試合	日立 サンディーバ	8−2	NECプラットフォームズ レッドファルコンズ
10月11日(日)	第1試合	NECプラットフォームズ レッドファルコンズ	1−10	戸田中央 メディックス埼玉
	第2試合	日立 サンディーバ	12−1	大垣 ミナモ
10月12日(月・祝)	第1試合	NECプラットフォームズ レッドファルコンズ	3−2	大垣 ミナモ
	第2試合	日立 サンディーバ	0−4	戸田中央 メディックス埼玉

ニトリ JD.LEAGUE 2026 第12節「東地区」高崎ラウンド 群馬県高崎市・宇津木スタジアム

月　日		試合結果		
10月9日(金)		ビックカメラ高崎 ビークイーン	2−1	太陽誘電 ソルフィーユ
10月10日(土)	第1試合	太陽誘電 ソルフィーユ	1−3	ホンダ リヴェルタ
	第2試合	ビックカメラ高崎 ビークイーン	12−0	デンソー ブライトペガサス
10月11日(日)	第1試合	太陽誘電 ソルフィーユ	1−3	デンソー ブライトペガサス
	第2試合	ビックカメラ高崎 ビークイーン	6−7	ホンダ リヴェルタ

ニトリ JD.LEAGUE 2026 第12節「西地区」豊田ラウンド　愛知県豊田市・豊田市運動公園野球場

月　日		試合結果		
10月9日(金)		豊田自動織機 シャイニングベガ	3−9	トヨタ レッドテリアーズ
10月10日(土)	第1試合	伊予銀行 ヴェールズ	12−2	豊田自動織機 シャイニングベガ
	第2試合	トヨタ レッドテリアーズ	0−2	タカギ北九州 ウォーターウェーブ
10月11日(日)	第1試合	タカギ北九州 ウォーターウェーブ	2−5	豊田自動織機 シャイニングベガ
	第2試合	トヨタ レッドテリアーズ	1−0	伊予銀行 ヴェールズ

ニトリ JD.LEAGUE 2026 第12節「西地区」甲賀ラウンド　滋賀県甲賀市・甲賀市民スタジアム

月　日		試合結果		
10月9日(金)		日本精工 ブレイブベアリーズ	3−2	SGホールディングス ギャラクシースターズ
10月10日(土)	第1試合	SGホールディングス ギャラクシースターズ	4−0	SHIONOGI レインボーストークス
	第2試合	日本精工 ブレイブベアリーズ	3−1	東海理化 チェリーブロッサムズ
10月11日(日)	第1試合	東海理化 チェリーブロッサムズ	2−8	SGホールディングス ギャラクシースターズ
	第2試合	日本精工 ブレイブベアリーズ	1−2	SHIONOGI レインボーストークス

ニトリ JD.LEAGUE 2026

東地区 第12節終了時点 順位表

順位	チーム名	勝敗	勝率
1位	ビックカメラ高崎 ビークイーン	20勝7敗	0.741
1位	戸田中央 メディックス 埼玉	20勝7敗	0.741
3位	ホンダ リヴェルタ	17勝9敗	0.654
4位	デンソー ブライトペガサス	16勝11敗	0.593
5位	日立 サンディーバ	12勝14敗	0.462
6位	NECプラットフォームズ レッドファルコンズ	11勝15敗	0.423
7位	太陽誘電 ソルフィーユ	8勝18敗	0.308
8位	大垣 ミナモ	7勝20敗	0.259

西地区 第12節終了時点 順位表

順位	チーム名	勝敗	勝率
1位	豊田自動織機 シャイニングベガ	18勝9敗	0.667
2位	SGホールディングス ギャラクシースターズ	18勝9敗	0.667
3位	トヨタ レッドテリアーズ	17勝10敗	0.630
4位	日本精工 ブレイブベアリーズ	13勝14敗	0.481
5位	SHIONOGI レインボーストークス	11勝14敗	0.440
6位	伊予銀行 ヴェールズ	11勝15敗	0.423
7位	タカギ北九州 ウォーターウェーブ	7勝19敗	0.269
8位	東海理化 チェリーブロッサムズ	5勝20敗	0.200

※順位の赤字はポストシーズン進出決定チームを示す





選手・チームのプロフィール、試合結果、全試合のLIVE配信はJD.LEAGUE公式サイトで

https://jdleague.jp/



2位 MORI ALL WAVE KANOYA

JAPAN SOFTBALL LEAGUE

第59回
日本女子ソフトボールリーグ
第４節

Platinum Section



１位 靜甲 ソルフェジオ

Platinum Section
順位確定
Sapphire Section



２位 大和電機 Blue Lakers

Sapphire Section



１位 小泉病院 Blue Arrows

【第4節】　令和８年10月9日（金）～11日（日）
☆プラチナセクション：茨城県古河市／幸土上大野グラウンド
★サファイアセクション：沖縄県金武町／金武町ベースボールスタジアム

☆プラチナセクション☆

靜甲、11勝２敗で１位

MORI ALL WAVE KANOYA 10勝３敗で２位

★サファイアセクション★

小泉病院が１位、大和電機が２位

３チーム「同率」に並ぶ「大混戦」の末、順位確定

●第4節・プラチナセクション概要●

「第59回日本女子ソフトボールリーグ」第4節プラチナセクションは、10月9日（金）～11日（日）の3日間、茨城県古河市／幸土上大野グラウンドを会場に開催された。

「プラチナセクション」は、静甲、ＭＯＲＩ ＡＬＬ ＷＡＶＥ ＫＡＮＯＹＡが「第3節」を終え、「同率首位」に並び、レギュラーシーズン「最終節」となる「第4節」を迎え、その両チームが今節初戦で激突。静甲が「キャプテン」井上葉菜のタイムリーで挙げた2点を「エース」小井沼美月が「ノーヒット・ノーラン」を達成する快投で守り切り、「単独首位」に浮上すると、残り2試合も連勝。通算成績11勝2敗とし、「1位」で「日本リーグ優勝」を争う「順位決定節」Ａブロック進出が決定。「連覇」をかけ、戦うことになった。

「王座奪還」に燃えるＭＯＲＩ ＡＬＬ ＷＡＶＥ ＫＡＮＯＹＡは、初戦の静甲との「首位攻防戦」で屈辱的な敗戦を喫し、続くＹＫＫ戦は、この試合を落とすと「同率」に並ばれ、しかも「直接対決」連敗となり、3位転落の危機に直面。この試合を何とか5－1でモノにし、「2位」の座を死守。「順位決定節」Ａブロック進出を決めた。

ＹＫＫは初戦の厚木ＳＣ戦に6－0で完勝。続くＭＯＲＩ ＡＬＬ ＷＡＶＥ ＫＡＮＯＹＡ戦に勝てば「順位逆転」「2位浮上」のチャンスだったのだが……一度は同点に追いつきながら終盤突き放され、今節2勝1敗の通算成績8勝5敗。3位でレギュラーシーズンを終了した。

4位は花王コスメ小田原。すでに「日本リーグ優勝」を争う「順位決定節」Ａブロック進出の可能性はなくなっていたが、「次」につながる「新たな形」を模索する戦いを見せ、今節2勝1敗。通算成績6勝7敗で「第4節」を終えた。

3位のＹＫＫ、花王コスメ小田原は5位～8位を決定する「順位決定節」Ｂブロックを戦うことになる。

5位は2勝11敗でルネス紅葉スポーツ柔整専門学校、厚木ＳＣが並んだが「直接対決」に連勝しているルネス紅葉スポーツ柔整専門学校が「リーグ規程」により、5位となり、厚木ＳＣが最下位となった。

5位・ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校、6位・厚木ＳＣは9位～12位を決定する「順位決定節」Ｃブロックに回ることになった。

●第4節・サファイアセクション概要●

「第59回日本女子ソフトボールリーグ」第4節サファイアセクションは、10月9日（金）～11日（日）の3日間、沖縄県金武町／金武町ベースボールスタジアムを会場に開催された。

「サファイアセクション」も小泉病院、ペヤングが7勝3敗の「同率首位」に並び、この「第4節」を迎えたが、ペヤングが「エース」大橋歩実を欠き、戦うことになったこともあり、稀に見る「大混戦」となった。

小泉病院は初戦のペヤング戦、「エース不在」の相手に12－2と大勝。これで首位の座は安泰と思われたが、続くＣｉｔｒｉｎｅ ＳＨＩＭＡＮＥ戦を2点のリードを奪いながら、終盤逆転を許し、2－6で落とし、最終の大和電機戦に1－10と大敗。今節2勝1敗で乗り切った大和電機、今節3連勝と猛烈なラストスパートを見せた平林金属の3チームが8勝5敗の「同率」で並び、同率で並ぶ3チームの「直接対決」の結果で順位を決定。3勝1敗の小泉病院が辛くも首位を守り、2勝2敗の大和電機が2位の座を確保。この2チームが「日本リーグ優勝」を争う「順位決定節」Ａブロック進出を決めた。

今節3連勝と最後の追い込みを見せた平林金属は1勝3敗で涙を飲み、惜しくも3位に終わった。

また、今シーズン「ミラクル」な快進撃で「サファイアセクション」を最も沸かせてくれたペヤングは、最後の「勝負どころ」で「エース」を欠くことになり、懸命・必死の戦いで最後の最後まで「順位決定節」Ａブロック進出の可能性を残したのだが、わずかに及ばず……4位で終戦となってしまった。

3位・平林金属、4位・ペヤングは5位～8位を決定する「順位決定節」Ｂブロックを戦うことになった。

5位は6勝7敗のＶＯＮＤＳ市原。昨年、一昨年と「日本リーグ準優勝」。昨シーズンは「全日本実業団選手権優勝」のタイトルを手にし、「今シーズンこそ、日本リーグ優勝を！」と意気込んで迎えたシーズンだったが……5位に沈むという不本意な結果となってしまった。

Ｃｉｔｒｉｎｅ ＳＨＩＭＡＮＥは通算成績2勝11敗で最下位。本拠地移転初年度は苦い結果となった。

5位・ＶＯＮＤＳ市原、6位・Ｃｉｔｒｉｎｅ ＳＨＩＭＡＮＥは9位～12位を決定する「順位決定節」Ｃブロックに回ることになる。

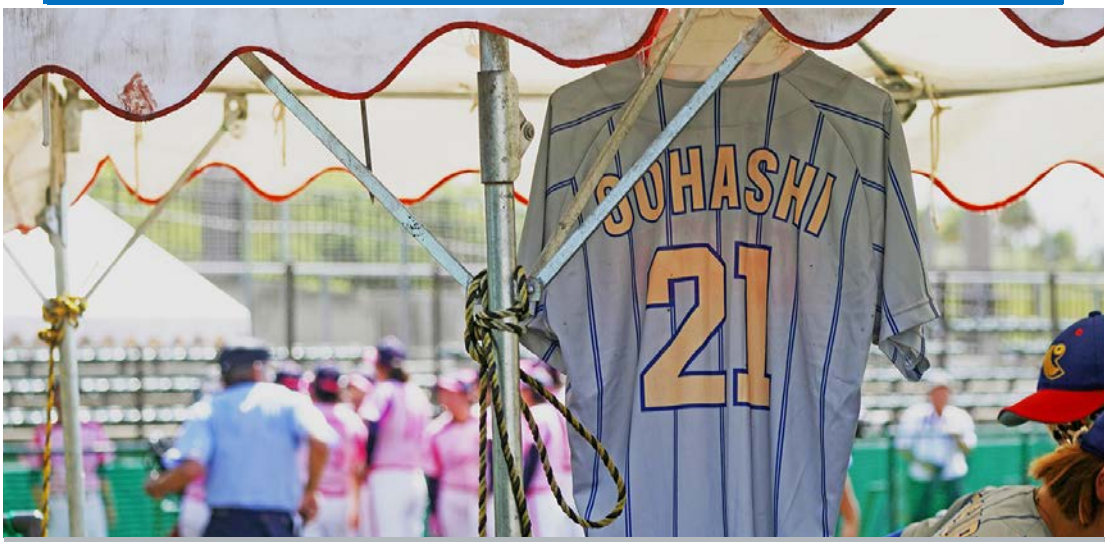


第59回日本女子ソフトボールリーグ　第4節「プラチナセクション」				
月　日	試合結果			
10月9日(金)	第1試合	静甲 ソルフェジオ	2－0	MORI ALL WAVE KANOYA
	第2試合	YKK	6－0	厚木SC
	第3試合	花王コスメ小田原 フェニックス	9－0	ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校
10月10日(土)	第1試合	MORI ALL WAVE KANOYA	5－1	YKK
	第2試合	花王コスメ小田原 フェニックス	1－0	厚木SC
	第3試合	ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校	2－5	静甲 ソルフェジオ
10月11日(月)	第1試合	YKK	7－3	花王コスメ小田原 フェニックス
	第2試合	MORI ALL WAVE KANOYA	2－0	ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校
	第3試合	厚木SC	3－7	静甲 ソルフェジオ

第59回日本女子ソフトボールリーグ　第4節「サファイアセクション」				
月　日	試合結果			
10月9日(金)	第1試合	大和電機 Blue Lakers	1－0	Citrine SHIMANE
	第2試合	VONDS市原 Emerald Green	4－6	平林金属 Peachblossoms
	第3試合	小泉病院 Blue Arrows	12－2	ペヤング
10月10日(土)	第1試合	平林金属 Peachblossoms	3－1	大和電機 Blue Lakers
	第2試合	ペヤング	1－4	VONDS市原 Emerald Green
	第3試合	小泉病院 Blue Arrows	2－6	Citrine SHIMANE
10月11日(日)	第1試合	平林金属 Peachblossoms	4－3	ペヤング
	第2試合	大和電機 Blue Lakers	10－1	小泉病院 Blue Arrows
	第3試合	Citrine SHIMANE	0－7	VONDS市原 Emerald Green

※試合のスコアをクリックすると各試合のレポートがご覧になれます

第59回日本女子ソフトボールリーグ			
プラチナセクション 第４節 終了時点 順位表			
順位	チーム名	勝敗	勝率
1位	静甲　ソルフェジオ	11勝2敗	0.846
2位	MORI ALL WAVE KANOYA	10勝3敗	0.769
3位	YKK	8勝5敗	0.615
4位	花王コスメ小田原 フェニックス	6勝7敗	0.462
5位	ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校	2勝11敗	0.154
6位	厚木SC	2勝11敗	0.154
サファイアセクション 第４節 終了時点 順位表			
順位	チーム名	勝敗	勝率
1位	小泉病院 Blue Arrows	8勝5敗	0.615
2位	大和電機 Blue Lakers	8勝5敗	0.615
3位	平林金属 Peachblossoms	8勝5敗	0.615
4位	ペヤング	7勝6敗	0.538
5位	VONDS市原 Emerald Green	6勝7敗	0.462
6位	Citrine SHIMANE	2勝11敗	0.154



大会結果詳報、戦績表、チーム紹介・選手プロフィール、試合スケジュール等詳細は
JSL オフィシャルウェブサイトで https://jsl-women.com/

●第55回日本男子リーグ第４節●



「第55回日本男子ソフトボールリーグ」のレギュラーシーズン最終節となる第４節が、去る10月10日～12日（※熊本大会が雨天により１日順延）、富山県富山市・熊本県水俣市を舞台に開催された。

４月に開幕した日本男子リーグもいよいよクライマックス。全18チームの順位が決定される今節は、前節（第３節）単独首位に浮上したトヨタが富山大会で相変わらず「好調」な戦いぶり！３勝１敗でリーグ戦を締めくくり、通算成績14勝３敗。一方の熊本大会で「無傷」の４連勝を飾ったＳＡＧＡダイワアクトに並ばれる形となったが、直接対決の成績（※トヨタが２－０でＳＡＧＡダイワアクトに勝利している）で上回り、最終的にトヨタの１位、ＳＡＧＡダイワアクトの２位が決定した。


リーグ戦を１位で駆け抜けたトヨタ




３位・４位・５位争いは、「史上稀に見る大混戦」！



平林金属 RINO BLAZEが５位に滑り込んだ

３位～７位はＨｏｎｄａ（今節２勝２敗）、三重ヴェルデウィン（今節３勝１敗）、平林金属 ＲＩＮＯ ＢＬＡＺＥ（今節３勝１敗）、山口水産（今節３勝１敗）、安川電機（今節２勝２敗）の５チームが通算11勝６敗で並ぶという……「史上稀に見る大混戦」。順位決定はリーグ規程へ委ねられることになり、５チーム間における直接対決の成績を比較。Ｈｏｎｄａ：３勝１敗、三重ヴェルデウィン：３勝１敗、平林金属 ＲＩＮＯ ＢＬＡＺＥ：２勝２敗、山口水産：１勝３敗、安川電機：１勝３敗となり、３勝１敗のＨｏｎｄａと三重ヴェルデウィンが抜け出し、さらに互いの直接対決の成績（※Ｈｏｎｄａが11－０で三重ヴェルデウィンに勝利している）によってＨｏｎｄａの３位、三重ヴェルデウィンの４位が決定。次に２勝２敗の平林金属 ＲＩＮＯ ＢＬＡＺＥが５位で滑り込み、「決勝トーナメント進出」決定！１勝３敗の山口水産と安川電機は、さらに互いの直接対決の成績（※山口水産が１－０で安川電機に勝利している）で６位・山口水産、７位・安川電機となり、決勝トーナメント進出（リーグ戦上位５チーム）に「あと一歩」届かなかった。



山口水産、安川電機は決勝トーナメント進出ならず…

８位はジェイテクト（今節２勝２敗／通算10勝７敗）、続いて豊田自動織機（今節２勝２敗）、旭化成（今節３勝１敗）、日本エコシステム（今節３勝１敗）が通算９勝８敗で並び、３チーム間における直接対決の成績も１勝１敗であったが、対戦得失点差により豊田自動織機の９位、旭化成の10位、日本エコシステムの11位が決定。12位・大阪桃次郎（今節１勝３敗／通算７勝10敗）、13位・デンソー（今節１勝３敗／通算５勝８敗）、通算５勝12敗で並んだ大阪・堺グローバル（今節４連敗）、高知パシフィックウェーブ（今節１勝３敗）、愛媛ウエスト（今節４連敗）は３チーム間における直接対決の成績も１勝１敗ながら、対戦得失点差により大阪・堺グローバルの14位、高知パシフィックウェーブの15位、愛媛ウエストの16位が決定。埼玉県庁クラブ（今節２勝２敗）は通算３勝14敗で17位、熊本嶋田クラブ（今節１勝３敗）は通算２勝15敗で18位に終わった。



各チーム今シーズンを振り返り、また来年へ





全18チームの「レギュラーシーズン」熱戦・激闘の果てに……

レギュラーシーズン 全チーム勝敗・順位

1位	トヨタ	14勝3敗
2位	SAGAダイワアクト	14勝3敗
3位	Honda	11勝6敗
4位	三重ヴェルデウィン	11勝6敗
5位	平林金属 RINO BLAZE	11勝6敗
6位	山口水産	11勝6敗
7位	安川電機	11勝6敗
8位	ジェイテクト	10勝7敗
9位	豊田自動織機	9勝8敗
10位	旭化成	9勝8敗
11位	日本エコシステム	9勝8敗
12位	大阪桃次郎	7勝10敗
13位	デンソー	6勝11敗
14位	大阪・堺グローバル	5勝12敗
15位	高知パシフィックウェーブ	5勝12敗
16位	愛媛ウエスト	5勝12敗
17位	埼玉県庁クラブ	3勝14敗
18位	熊本嶋田クラブ	2勝15敗

※上位５チームが決勝トーナメントに進出



◆富山大会◆

【大会第１日（10月10日）試合結果】

平林金属 RINO BLAZE　３－２　ジェイテクト
トヨタ　５－３　デンソー
日本エコシステム　４－２　愛媛ウエスト
ジェイテクト　４－１　安川電機
トヨタ　２－１　埼玉県庁クラブ
日本エコシステム　２－１　Honda
安川電機　４－１　デンソー
埼玉県庁クラブ　６－４　愛媛ウエスト
平林金属 RINO BLAZE　４－０　Honda

【大会第２日（10月11日）試合結果】

日本エコシステム　３－２　平林金属 RINO BLAZE
Honda　５－３　安川電機
トヨタ　４－１　ジェイテクト
平林金属 RINO BLAZE　６－２　埼玉県庁クラブ
デンソー　10－６　愛媛ウエスト
Honda　６－５　トヨタ
安川電機　５－３　日本エコシステム
ジェイテクト　14－５　愛媛ウエスト
埼玉県庁クラブ　８－５　デンソー

◆熊本大会◆

【大会第１日（10月10日）試合結果】

SAGAダイワアクト　４－２　大阪桃次郎
豊田自動織機　16－６　大阪・堺グローバル
山口水産　５－３　旭化成
熊本嶋田クラブ　８－７　高知パシフィックウェーブ
旭化成　16－４　大阪桃次郎
三重ヴェルデウィン　６－３　山口水産

【大会第２日（10月11日）試合結果】

旭化成　２－１　三重ヴェルデウィン
SAGAダイワアクト　３－０　豊田自動織機
高知パシフィックウェーブ　７－５　大阪・堺グローバル
旭化成　17－10　熊本嶋田クラブ
山口水産　４－２　大阪・堺グローバル
大阪桃次郎　３－２　高知パシフィックウェーブ
SAGAダイワアクト　７－０　熊本嶋田クラブ
山口水産　12－０　大阪桃次郎
三重ヴェルデウィン　４－２　豊田自動織機

【予備日（10月12日）試合結果】

豊田自動織機　８－１　熊本嶋田クラブ
三重ヴェルデウィン　２－０　高知パシフィックウェーブ
SAGAダイワアクト　９－１　大阪・堺グローバル

第４節の詳細レポート ダイジェスト動画はこちら！

32年ぶりに アジア競技大会を日本開催！

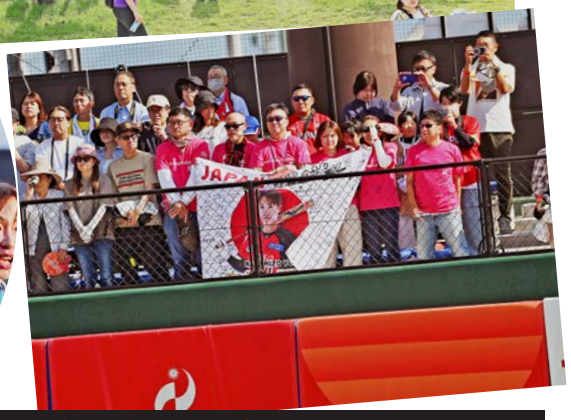












観測史上「初」の秋の長雨にも負けず…

9月は全国的に天候がすぐれず、東京では1カ月間毎日雨が降り続くという「観測史上初」の「秋の長雨」となり、全国各地で開催された「全日本大会」（全国大会）や各種リーグもその影響を受け、雨天順延や大会の途中打ち切りが相次いだ。

32年ぶりの「日本開催」となった「第20回アジア競技大会」（2026／愛知・名古屋）もソフトボール競技の会場となった愛知県安城市が大会前半、悪天候に見舞われ、通常なら「このグラウンド状態じゃ試合できないよね……」というような状況の中、大会関係者、ボランティアの皆さんの懸命のグラウンド整備もあり、何とか予定された試合を行うことができ、女子TOP日本代表の「大会7連覇」「7大会連続の金メダル獲得」という「前人未踏」の記録達成の瞬間に立ち会うことができた。

こうした国際的なビッグイベントの前後にも各種全日本大会、日本リーグが通常通り開催され、そこには「大会を成功させよう！」「良い思い出を持ち帰ってもらおう‼」と力を尽くす人たちの姿があった。

大会の規模に関係なく、そこに参加・出場する皆さんにとっては「一期一会」。だからこそ……誰もが大会の成功を願い、全力を尽くしている。

全国各地で大会を支えてくださった皆さん



















大会を支えてくださったすべての皆さんに感謝を！

事務局だより

日米対抗ソフトボール「出場選手」が決定！

女子ソフトボール〝宿命のライバル〟日本とアメリカが対戦する「日米対抗ソフトボール」。

愛知県名古屋市／バンテリンドームナゴヤ（11月19日開催）、沖縄県那覇市／沖縄セルラースタジアム那覇（11月21日・22日開催）にて3試合実施される「日本vsアメリカ」「世界最高レベル」のぶつかり合い。

その頂上決戦に臨む選手が決定・発表された。



アジア競技大会7連覇を経て、アメリカとの決戦へ！

女子TOP日本代表は先日のアジア競技大会優勝（7連覇達成）メンバーをはじめ、山口未葵（捕手／ホンダ）、加減夢華（内野手／ビックカメラ高崎）、小松優月（内野手／太陽誘電）、島仲湊愛（外野手／トヨタ）の4名がTOPチーム初選出。「新たな可能性」もしくは「刺激」となり、相乗効果をもたらすことができるか……注目される。



TOPチーム「初選出」の選手たちに注目・期待

一方のアメリカ代表はこのところ「若手主体」「大学選抜」のチーム編成で出場する傾向にあったが、来る2028年〝自国開催〟となるロサンゼルスオリンピックに向け、強化を本格化！「エース」メーガン・ファライモ、直近の国際大会（ワールドカップグループステージ）で「MAX122キロ」を叩き出した「新星右腕」カーリン・ピッケンズ擁する強力投手陣はさることながら、打線も「前回、上野由岐子に一発を浴びせた」スカイラー・ウォレス、かつて女子TOP日本代表・石川恭子キャプテンも出場した2015世界ジュニア選手権（※現・U18ワールドカップ）で「アメリカの4番」をはり、快打連発！「圧倒的強さ」で王座をさらったシドニー・ロメロら……実力者が名を連ねている。





宿命のライバル・アメリカはLA28に向けて、強化を本格化させている!!

◎出場選手名簿・プロフィールは、「大会特設サイト」をご覧ください

前述のように、今回の「日米対決」は一味違う!!

LA28（2028年ロサンゼルスオリンピック）へとつながる「日米対抗ソフトボール2026」を、ぜひ球場でご観戦ください。